

大項目	書くこと
小項目	見て書く
タイトル (教材名)	下線を見て書こう！
目的 身につけてほしい力	単語をまとまりとして意識し、書くことができる。
教材の概要 材料 作り方 工夫点など 画像	<u>さるが</u> <u>くまと</u> <u>おどる</u>
教材の使用方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 指導者が黒板に短文を書く。 ② その際、文節と文節との間にスペースを作る。 ③ また、文節ごとに、下に線を引く。 ④ まず音声としてまとまりを感じるため、声に出して文章を読む。 ⑤ 児童生徒は単語、文章をまとまりで書く。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板ではなく、プリントであれば、ラインマーカーなどで文節ごとに線を引き強調する。 ・プリントであれば、文節ごとにラインマーカーの色を変えて線を引くことも考えられる。 ・単語をまとまりとして意識することが大切なので、正しく書くことには重点を置かない。 ・まず声に出して読むことで多感覚を使用することになり、ワーキングメモリの働きがよくなると考えられる。 ・たて書きが得意な児童生徒、また横書きが得意な児童生徒がいるので文章の提示の仕方は柔軟に変更できるようにしておく。 ・参考文献 「特別支援教育をサポートする読み・書き・計算指導事例集」(梅田真理、ナツメ社、2016年)